

日本音楽理論研究会第 37 回例会のお知らせ

日本音楽理論研究会は、前回 5 月例会では初めてオンライン例会にチャレンジしました。こうした活動を継続することは非常に意義あることと考え、今回 10 月例会もオンライン例会を開催いたします。

今回のテーマは、PC セット理論の紹介と PC セット理論によるアントン・ヴェーベルンの《3 つの歌曲 作品 25》第 1 曲の 2 名による分析です。奮ってご参加ください。

◆◆◆ 日本音楽理論研究会第 37 回例会 ◆◆◆

日時： 2021 年 10 月 3 日(日) 13:00—18:00 Zoom によるオンライン開催

参加方法: dolcecanto2003jp@yahoo.co.jp に、以下の内容のメールを送信された方に Zoom の URL を返信いたします。

- ・メールのタイトルに、「日本音楽理論研究会第 36 回例会参加希望」とご記入ください。(メールの見落としを防ぐために)
- ・メールの内容に、「お名前、所属(があれば)、メールアドレス」をご記入ください。
- ・初参加の方は、簡単な自己紹介、およびどのように本研究会をお知りになったか必ずご記入ください。
- ・申し込み期限: 2021 年 10 月 2 日(金)22 時(日本時間)厳守でお願いいたします。

参加費: オンライン試行のため、前回に続き、今回も無料とします。

※ 注意:

- ・Zoom の接続に関しては、こちらではサポートできません。
- ・途中参加および途中退出は自由です。
- ・質疑応答時に発言希望される方は、チャットに「お名前」を書きこんでください。時間の許す限り、司会から指名させていただきます。なお、発言は 1 分以内で簡潔にお願いいたします。

◆ プログラム ◆

※ 発表要旨は、約 250 字版と約 750 字版を併記します。

※ 例会の発表内容は後日、「日本音楽理論研究会通信」(2021 年 12 月発行予定)で報告します。

== 特集 == PC セット理論について ——アントン・ヴェーベルンの《3 つの歌曲 作品 25》第 1 曲の分析——

※ 各発表者持ち時間 90 分(分割予定)を交代リレー発表様式で行います。およその時間配分について、参加申し込みのあった方に直前にお知らせいたします。

※ 分析対象作品の楽譜は以下のサイトから入手可能です。

3 Lieder nach Gedichten von Hildegard Jone, Op.25 (Webern, Anton)

<https://petruccimusiclibrary.ca/files/imglnks/caimg/e/ec/IMSLP313889-PMLP506865-Webern ->

[Drei Lieder nach Gedichten von Hildegard Jone, op. 25.pdf](#)

※ 分析対象作品の演奏は以下のサイトで試聴できます。

https://www.youtube.com/results?search_query=webern+op.25

★ 発表 1

川本聡胤「PC セット理論(2)」

無調音楽を分析するために発展してきた PC セット理論について紹介するシリーズの第2回目として、本発表では、前回解説したこの理論の前提となる諸概念について、具体的な楽曲分析を通して明らかにする。PC セット理論の前提概念として前回解説したのは、ピッチとピッチクラス、ピッチ音程とピッチクラス音程、ピッチセットとピッチクラスセットなどであった。これらのそれぞれが楽曲の中で果たす役割について、ストロースはウェーベルンの「3つの歌」作品25第1曲の分析を通して論じている。本発表では、ストロースの分析を紹介しつつ、それを敷衍し、彼の分析が意味することについて、考察を深めたい。

無調音楽を分析するために発展してきた PC セット理論について紹介するシリーズの第2回目として、本発表では、前回解説したこの理論の前提となる諸概念について、具体的な楽曲分析を通して明らかにする。

PC セット理論の前提概念として前回解説したのは、ピッチとピッチクラス、ピッチ音程とピッチクラス音程、ピッチセットとピッチクラスセットなどであった。より詳しくいうと、ピッチとピッチクラスの関連では、オクターブ等価性、異名同音性、整数記譜法、時計盤、などについて論じた。ピッチ音程とピッチクラス音程の関連では、法12、有向音程と無向音程、音程クラスと音程ベクターについて論じた。そしてピッチセットとピッチクラスセットの関連では、古典的な音楽理論における和音の概念をピッチセットの一例として引き合いに出しつつ、ピッチクラスセットという概念について論じた。

今回の発表では、これらの諸概念について、新たに解説を加えつつ、概念そのものよりもそれらが実際の楽曲内でどのような機能を果たしているのかについて、明らかにしたい。ジョゼフ・ストロースは、ウェーベルンの「3つの歌」作品25第1曲の分析を通してこれらの概念の機能について論じている。特に有向ピッチ音程、無向ピッチ音程、有向ピッチクラス音程、無向ピッチクラス音程のそれぞれがこの曲で果たしている役割に関する彼の発見と解説は鮮やかであり、読むものの多くが啓蒙されるのは間違いない。しかしながらその発見一つ一つが意味するところについて、ストロースは余すところなく語り尽くしているわけではない。特に数学的な説明に依拠する部分については、一見、我々の音楽聴取体験からかけ離れたことを論じているように聞こえなくもない。本発表では、ストロースの分析を紹介しつつ、それを敷衍し、彼の分析が真に意味することにまで考察を深めていくことにより、PC セット理論が目指すことについてより深い理解を得たい。

★ 発表 2

見上潤「オトゲノム理論 vs.ピッチクラスセット理論 ——12 音音素材の整理分類法再考察——（第 1 回）ヴェーベルン《3 つの歌曲 作品 25》第 1 曲」

本発表は、オトゲノム理論とピッチクラスセット理論のリンクによって 12 音音素材の整理分類法を再考察し、音楽分析および作曲のためのインフラストラクチャーを整備することを目指している。音素材を認識する方法において、前者が主として視覚的・図式的発想によって、後者が主として数列によってと、大きな相違点があるものの、12 音音素材の合理的で最も単純な記述を目指す発想はかなり似通っている。従来の 5 線譜表記とともに、音素材分析表、数列等を駆使し関連させることで両理論の統一的理解を目指す。実作品の分析例としては、Webern《Drei Lieder Op.25》(1934-35)第 1 曲を取り上げる。

本発表は、オトゲノム理論とピッチクラスセット理論のリンクによって 12 音音素材の整理分類法を再考察し、音楽分析および作曲のためのインフラストラクチャーを整備することを目指している。音素材を認識する方法において、前者が主として視覚的・図式的発想によって、後者が主として数列によってと、大きな相違点があるものの、12 音音素材の合理的で最も単純な記述を目指す発想はかなり似通っている。従来の 5 線譜表記とともに、音素材分析表、数列等を駆使し関連させることで両理論の統一的理解を目指す。実作品の分析例としては、Webern《Drei Lieder Op.25》(1934-35)第 1 曲を取り上げる。

調性音楽に関しては、島岡譲のゆれ理論によって音楽的現象に即した極めて精密な分析が可能となっている。しかしながら、この理論の射程をどこまで広げることが可能なかはまだ解明されていない。発表者はこれを補完するものとしてオトゲノム理論を考案した。近現代音楽の作品分析のために音素材を一旦調性や 5 線譜から引き離すことで客観的に分類整理する必要があった。柴田南雄による 12 音列分類のためのヘクサコルド理論を応用して、2 音から 10 音までの 12 音音素材（音程、和音、音階等を含む）を 120 種のオトゲノムに分類整理した。これを発表した 1992 年当時、分子生物学の分野において進行中であったヒトゲノム計画にあやかって、オト（音）ゲノムと命名した。以来 30 年間、無調性の分析や移限音素材概念の発見などに留まらず、調性の分析においてもこの理論から得たことは少なくない。ピッチクラスセット理論に関しては、Wikipedia の”List of pitch class sets”を主に参照した。将来これらの情報を化学における元素周期律表のように各音素材の属性を一覧できるオトゲノム・ハンドブックの作成を展望している。

★ ラウンドテーブル：参加者全員

***** 今後の例会の予定（発表者募集中）*****

※ 注意： 日程・時間・内容等、変更になる場合がありますので、最新情報はホームページでご確認ください。

★ 第 38 回例会 2022 年 5 月 15 日（日） 【創立 20 周年記念特別企画】を予定！

★ 第 39 回例会 2022 年 10 月 2 日（日） 詳細未定

日本音楽理論研究会事務局（本部） Secretariat of THE SOCIETY FOR MUSIC THEORY OF JAPAN

HP: <http://sound.jp/mts/> TEL & FAX: 097-545-4374 Email: endo@oita-pjc.ac.jp

〒870-0833 大分市上野丘東 1-11 大分県立芸術文化短期大学音楽科 遠藤研究室気付

日本音楽理論研究会東京事務局 Tokyo office of THE SOCIETY FOR MUSIC THEORY OF JAPAN

Email: dolcecanto2003jp@yahoo.co.jp（見上潤 Mikami Jun）
